学生研究報告

大阪の方言

——「寝ろ・鍵をかける・仲間に入れて・歯にはさまる・青あざ・たくあん」をあなたはどう言いますか？——

大谷　将史*　　大原　詩艶*
奥田　拓努*

キーワード：大阪方言、寝ろ、鍵をかける、仲間に入れて、歯にはさまる、青あざ、たくあん

はじめに

平成23年度「日本語学概論」（大槻先生担当）の講義で、「方言についてのエピソード」を述べるという課題があった。その結果をまとめた一覧表（大槻先生作成）の中に、大阪府下でもさまざまに言い方の違うものがあることに気づいた。そこで、受講生であった筆者らは、特徴的な6つの表現——「寝る」の命令形、「鍵をかける」「仲間に入れる」「歯にはさまる」「青あざ」「たくさん」——を選び、あらためてアンケートを実施した。

アンケートの対象は、教育学部・平成24年度前期「日本語学概論」「国語概説」の受講生（18歳～22歳）であり、そのうち大阪府下出身の68名のアンケートを有効回答として回収した。また、言語地図として、web上で取得できる「大阪府白地図」（「白地図専門店」）を利用した。なお、本論文の最終ページに「251市区町村の名称を記載した地図（PNG形式）」を掲載しておく。

また、右の地図は山本俊治（1962）による、大阪府下の方言区分図である。方言分布は概ね、能勢方言、三島方言、摂津方言、北・中河内方言、南河内方言、泉北方言、泉南方言の七つの方言使用地域に区分出来るという。以下の記述の際に利用するので、掲載しておく[1)]。

*教育福祉学部2回生

- 大阪方言
  - 摂津方言
    - 摂津方言（大阪・豊中・池田・箕面・吹田各市）
      〔北摂方言〕（能勢町西部・旧止々呂美村・旧細河村）
    - 三島方言（高槻・茨木各市）
      〔淀川沿岸方言〕（三島郡・旧鳥飼村・旧三箇枚村）
    - 能勢方言（豊能郡）
  - 河内方言
    - 中・北河内方言
      - 北河内方言（枚方市・交野町）
      - 中河内方言（寝屋川・守口・大東・河内・布施・八尾各市・中河内郡）
    - 南河内方言（柏原・羽曳野・富田林・河内長野各市・南河内郡）
  - 和泉方言
    - 泉北方言（泉北郡・堺・泉大津・和泉各市）
    - 泉南方言
      - 中和泉方言（岸和田・貝塚・泉佐野各市・熊取町）
      - 南和泉方言（泉南郡）

調査結果と分析

1「寝る」の命令形（図 1）

人に「寝ろ」と言うとき「寝え（寝えよ、寝（ね）を含む）・寝り・その他」のどれを使いますか。

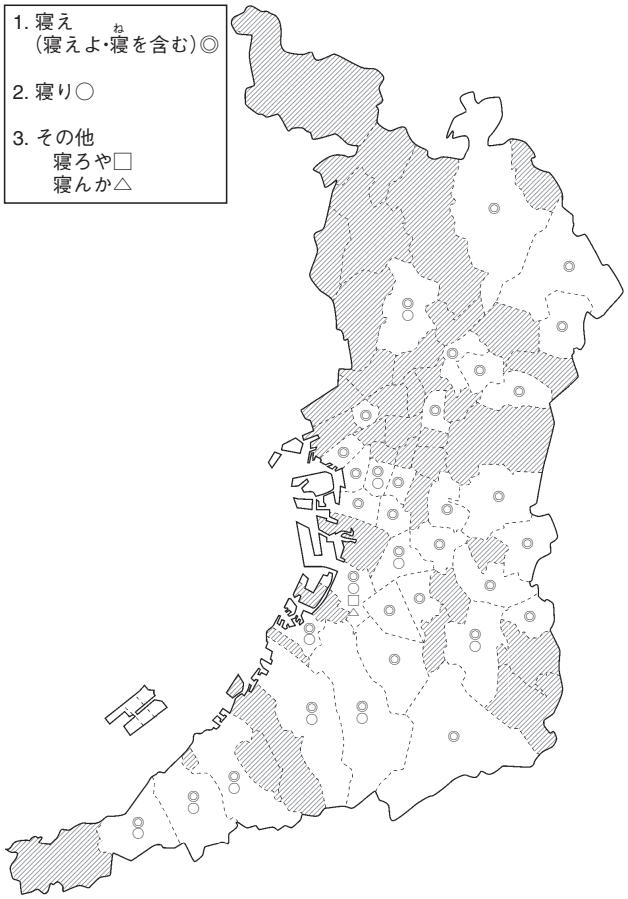
「寝ろ」と命令する時、大阪府下では「寝え」が多く用いられるが、「寝り」という言葉遣いも出てきたので、どれをどの地域で使用するかを調査した。

まず、「寝え」「寝り」「その他」のどれを使うかを聞いた。その語を使用すると回答した者が一人でもいれば、地図上に該当する記号を記した。また、一人で複数の語を用いるとの回答があった場合、その地域では両形を用いるものと判断した。また、アンケートに対して回答がなかった地域には、地図上に斜線を付した。図 2〜5 も同様の記載方法で記している。

以上のような手続きをとった結果が（図 1）である。

これを見ると、「寝え」系が大阪府下全域に広がっていることがわかる。一方「寝り」系は、和泉市・岸和田市・泉佐野市・泉南市・阪南市など、泉北・泉南方言を中心に見られた。また、「寝り」系を使う地域では、「寝え」系と「寝り」系が共に用いられていることもわかった。これは、もともと「寝り」を使う地域に「寝え」が入ってきたためと考えられる。

（図 1）



また、堺市西区においては「寝え」「寝り」系のほかに「寝ろや」「寝んかい」を使うという回答もあった。

ところで、「寝り」という語はどのようにして生まれたのだろうか。大阪方言の命令形のあり方から、その由来を推測してみた。

大阪方言の命令形の3形式

		命令形命令	連用形命令	テ形命令
五段動詞	行く	イケ	イキ	イッテ
上一段動詞	見る	ミイ（ミー）	ミ	ミテ
	起きる	オキイ（オキー）	オキ	オキテ
下一段動詞	寝る	ネイ（ネー）	ネ	ネテ
	食べる	タベイ（タベー）	タベ	タベテ
サ変動詞	する	セイ（セー）	シ	シテ
カ変動詞	くる	コイ	キ	キテ

（牧野（2009）による）

上の表は、大阪方言－ことに摂津方言を中心に命令形を整理している。この表によると、命令形には三つのタイプがあることがわかる。表の中の「寝る」のところを見ると、命令形命令の「ネイ（ネー）」、連用形命令の「ネ」、テ形命令の「ネテ」の3つの形がある。牧野（2009）は摂津方言を取り上げているので、「寝り」は出ていない。

さて、「寝り」は、この連用形命令に由来すると推測できる（以下、大槻先生談）。動詞の中で最も語数の多いのは五段（四段）動詞だと言われている。五段動詞で「る」で終わるもの、たとえば、「走る」「集まる」「謝る」…などの連用形命令は、「走り」「集まり」「謝り」…など「り」形になる。「寝る」は下一段動詞なので、連用形は「寝（ね）」が本来だが、これら多数派を占める五段動詞への類推で、「寝り」になったと考えられるのだ。

そう考えるのには根拠がある、一段動詞や二段動詞は五段（四段）動詞の振る舞い方に準じて、新しい語形を生み出してきたという歴史があるのだ。たとえば、「寝る」は古典語の文法では「ね・ね・ぬ・ぬる・ぬれ・ね」と活用するが、現代語では「ね・ね・ねる・ねる・ねれ・ねろ」と、終止形と連体形が同じ形になる。これは五段動詞が終止形と連体形が同じ形であることに影響をうけたと考えられている。また、「寝られる」が「寝れる」のように「ラ抜き言葉」となるのも、「切れる」「成れる」「取れる」のような五段動詞の可能形と似た形になろうとしたためと考えられるからである。このような点から、「寝り」は五段動詞への類推によって生じた形と見られる。

2　鍵をかける（図2）

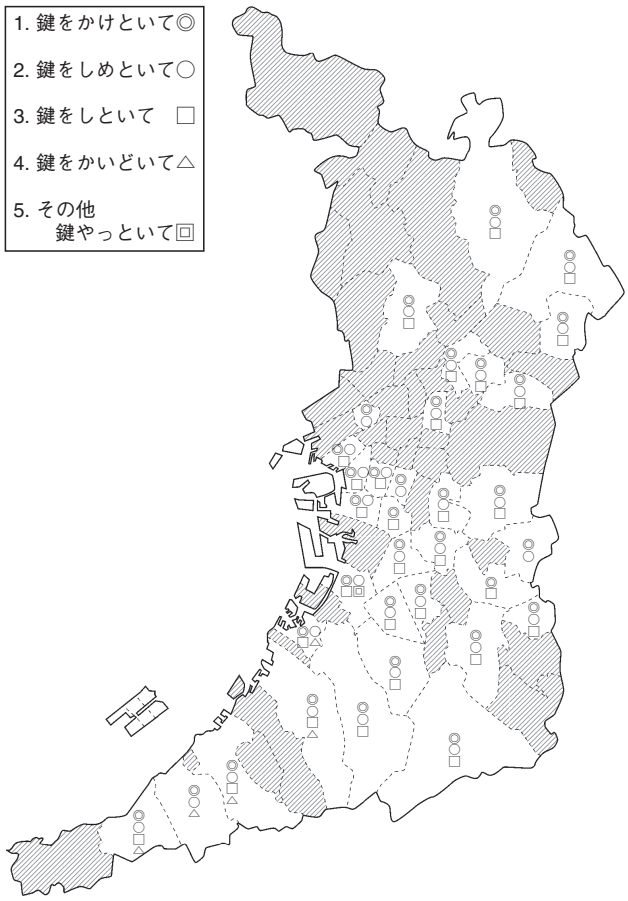
「鍵を掛けて」と頼むとき「掛けて・閉めて・しといて・かいどいて・その他」のどれを使いますか。

大阪府全域で「（鍵を）掛けといて・閉めといて・しといて」の三つが使われている。しかし、それ以外に、泉大津市・岸和田市・泉佐野市・阪南市などの泉北・泉南地域では、鍵を「かいどいて」を使う人がいる。

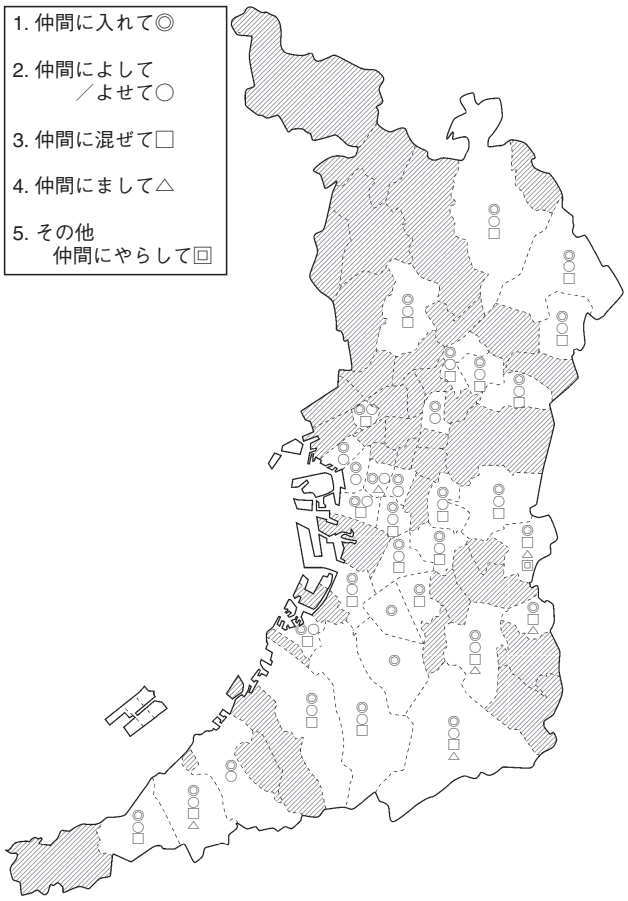
「かいどいて」は「かいでおいて」の縮まったものであり、「かい」は「かく／かぐ」（四段動詞）の連用形がイ音便化したものと考えられる。

現在「鍵をする」という意味で使われる「（鍵を）かける」が古語の下二段動詞「かく」からきていることは、古語辞典に「閉ざす・錠をかける」（『三省堂　詳細古語辞典』）の意味があることからも明らかである。では、泉州方言の「かく」はどこからきているのだろうか。そこで古典辞典を見てみると、古語辞典には「掛（懸）く」で四段動詞と下二段動詞があり、いずれも「取り付けて下げる／関係する・つながりをもつ」という意味の他動詞であることがわかった。泉州方言

（図 2）



（図 3）



の「かく」は、古語の四段動詞「かく」が今日まで残ったものかもしれない。また「かぐ」という形が終止形だとすると、「鍵（かぎ）」という名詞から逆成（料理（りょうり）→料る、黄昏（たそがれ）→たそがる）した動詞という可能性も考えられる。

3　仲間にいれる（図 3）

「仲間に入れて」と言うとき「入れて・よして、よせて・混ぜて・まして・その他」のどれを使いますか。

大阪府全域で、仲間に「入れて」「よして・よせて」「混ぜて」がまんべんなく使われている。

それに加えて、奈良県寄りの、柏原市・太子町・富田林市・河内長野市・泉南市の各市町－つまり、南河内方言・泉南方言においては「まして」も使われている。「まして」は「増して」だと考えられる。なお、「まして」は奈良県の方言として使われているとの報告がある（「ほべりぐアーカイブ・くらべてガッテン」）。南河内方言と奈良方言との影響関係がみられて興味深い。

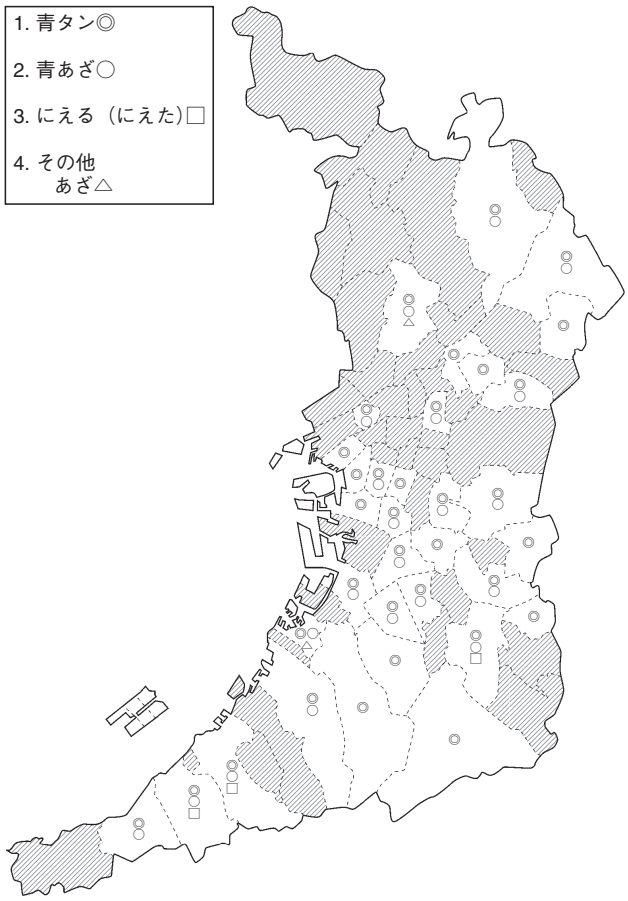
4　内出血（図 4）

「内出血」の事を「青タン・青あざ・にえる・その他」のどれを使いますか。

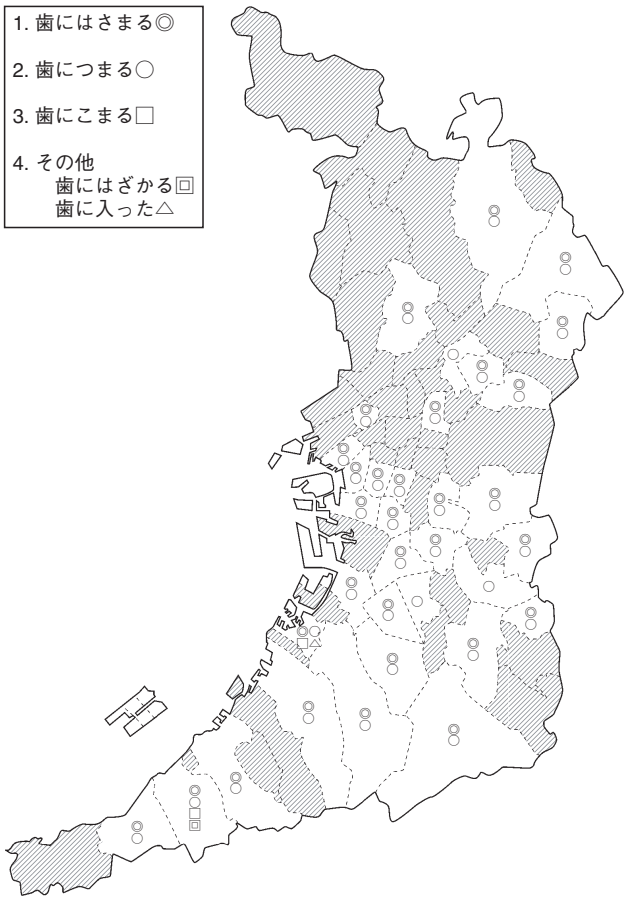
「青タン」「青あざ」の両方がほぼ全域で使われている。図中の使用箇所を数えると、「青タン」（34 ヵ所）、「青あざ」（21 ヵ所）と、「青タン」の方が「青あざ」よりもやや使用率が高い。

『出身地が分かる！気づかない方言』によると、「青タン」は「もともと北海道の方言だ」とあり、北海道・青森・福島・東京・富山・大阪で多く使われているようである。井上（1998）にも「あおたん」は「北海道で生れて東京に進出したこと

（図 4）



（図 5）



ば」と書かれていた。大阪に進出した理由についてはふれられていなかった。

ほかに、「内出血」と同様の意味を持つ言葉に「にえる」という泉南方言がある。『日本国語大辞典』の「にえる」には「体を打った時などに皮膚の色が変わる」という意味の方言として、和歌山県で使われていると載っている。

「にえる」はこのように、和歌山や大阪の南部で使われていることがわかる。

5　歯に物がはさまった（図 5）

「歯に物がはさまった」とき「歯にはさまる・歯につまる・歯にこまる・その他」のどれを使いますか。

歯に物がはさまった時、大阪では全般的に「はさまる」「つまる」が使われる。それ以外に、泉北方言・泉南方言で「こまる」が使用されている。また、泉大津市においてのみ「入った」の回答が見られた。泉南市においては「はさかる」という回答もあった。

泉州方言の「こまる」という言葉は、「込む」の自動詞形だろう。『日本国語大辞典』に「こまる【込】内に置かれる。入れられる。中にある」とあり、『日葡辞書』[2)]の「Comari, u, atta（こまる）〈訳〉中に置かれる、ある」が例としてあがっている。『日葡辞書』は江戸時代初期に編纂された辞書であり、「こまる」という言葉は、少なくとも江戸時代初期には既に使用されており、現代まで受け継がれてきた言葉であると考えられる。

また、同じく『日本国語大辞典』には「すきまに挟まる」という意味で京都や和歌山で「こまる」を使うという記載がある。「歯にものがはさまる」の意味でつかうかどうかははっきりしない

が、使い方は似ており、和歌山と大阪南部の方言の影響関係がうかがえる。

「はさかる」は、『日本国語大辞典』に、『俳諧中庸姿（はいかいつねのすがた）』（1679 年刊）という俳諧の連句集の例（「霰栗石…靴にはさかる」）があげられていて、「間につまる」「はさまる」という意味で使われている。歯にものがはさまったという例ではないが、方言の「はさかる」はこのあたりから来たと思われる。また、同辞典には、京都府、大阪府、兵庫県では「はざかる」が「すきまにものが入る」という意味の中でも「特に歯の間に食べたものが挟まる」という意味の方言として使われることが記されている。

6　たくあん（図 6）

「たくあん」の事を「たくあん・こんこ・こうこ・こんこん・その他」のどれを使いますか。

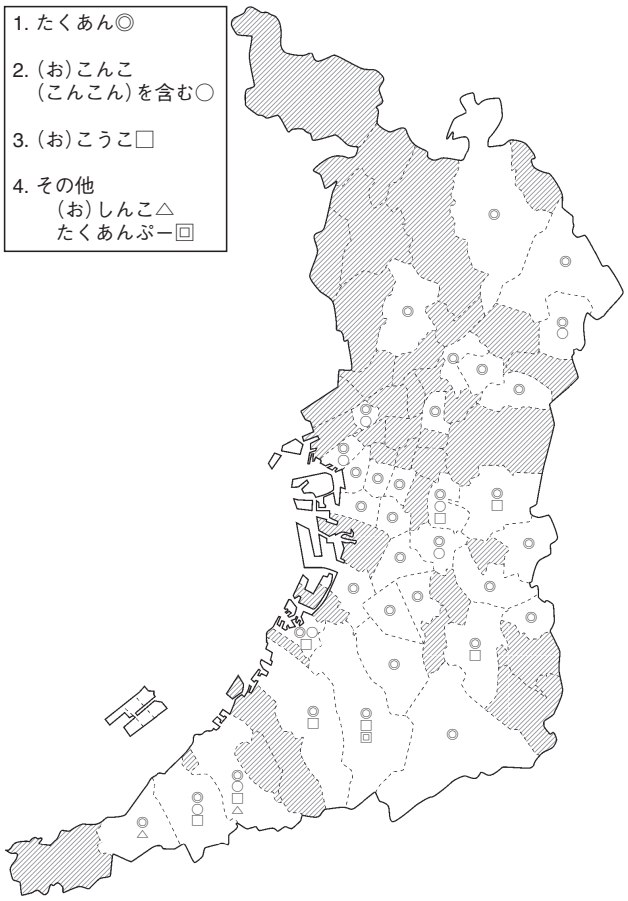
大阪府全域で「たくあん」が使用されている。「(お)こうこ」「(お)こんこ」が「たくあん」に次いで多く使われており、両方使用する地域もあることが分かった。しかし、大阪の北部では「たくあん」が主流で、両方の言葉を使用している場合は少ないことが分かる。また、「(お)しんこ」という回答が、住吉区と阪南市でのみで見られた。

「たくあん」は、『日本国語大辞典』によると「たくあん漬け（沢庵漬）の略」であり、「沢庵漬」は「漬物の一つ。大根やその系統の練馬大根等を一、二週間天日に干して水分を取り、樽に並べて糠と塩を振り、押しぶたに押し石をのせて漬けたもの」と書かれていた。

一方、「こうこ」は『日本語源広辞典』によると「語源は「香＋香」から後のウ音脱落の語です」と載っていた。「こうこ」の撥音便化したものが「こんこ」なので、「こうこ・こんこ」ともに、元の形は「香香（こうこう）」であったと言える。

そこで、「こうこう」を『日本国語大辞典』で

（図 6）



見てみると、「(「香の物」の「香」を重ねたもので、もと女房詞）生の野菜を、糠味噌や塩につけた食品。古くは味噌漬をいい、また、沢庵漬をいう場合もある。こうのもの。つけもの。こうこ」、同じく「おこうこう」は「(「お」は接続語）大根の漬物をいう女房詞。こうこう。こうのもの。お新香。おこうこ」とあった。

女房詞とは「室町初期ごろから、宮中奉仕の女官が主に衣食住に関する事物について用いた一種の隠語的なことば。のち将軍家に仕える女性から、町家の女性にまで広がった」（『広辞苑』）ものである。

このように「こうこ」「こんこ」などは、大根の漬物を指す言葉として、室町時代ごろから続くものであることが分かった。

まとめ

同じ大阪の方言でも、大阪府の南部（泉州・河内地域）と北部（大阪市以北）とで、用いる言葉に違いのあることがわかった。しかし、それは二つの地域に完全に分断されているというのではなく、大阪南部では、独自の言葉とともに大阪市内などで使われている言葉も使うことが多いということがわかった。つまり、大阪南部では古い言葉が残っていると言えると同時に、大阪市内など大阪北部で使われている言葉も使っているといえる。

また、泉州地域では和歌山の方言との影響関係（「にえる」「込まる」）、南河内では奈良の言葉との影響関係（「まして」）があることもわかった。

今回のアンケート作成においては、市区町村ごとにおける回答人数が少なかったり、回答者のいない地域もあったため、集計にばらつきがみられたりした。今後このようなアンケート調査をする際には、各市区町村の回答人数を多く、またなるべく均等になるようにすべきであると思った。

また、方言研究の方法には、どこでどんな言葉が使われているのかという分布調査だけでなく、言葉の意味や語形の変化などを調べていく方法があることがわかった。これにより、方言の由来などをより深く理解することができた。

注

1）「郡（1997）は大阪府の方言には摂津方言（いわゆる「大阪弁」とよばれるもの）、河内方言、和泉方言があり、このうち摂津方言と河内方言（特に北・中河内方言）は非常によく似ているとしている」（牧野 2009）という。

2）「日葡辞書」とは「（略）日本語を和漢・雅俗の別なく採集、ポルトガル語で語釈し、出典・用法・関連語・位相その他を示し、宣教師らの日本語習得の便を図ったもの」（『日本国語大辞典』）である。

参考文献

島田勇雄（1944）「大阪方言の命令法」『方言研究』10（『日本列島方言叢書⑯－近畿方言考④大阪府・奈良県』（1996）ゆまに書房　所収）

山本俊治（1962）「大阪府方言」『近畿方言の総合的研究』三省堂

郡史郎（1997）『大阪府のことば』日本のことばシリーズ 27　明治書院

井上史雄（1998）『日本語ウォッチング』岩波新書

牧野由紀子（2009）「「大阪方言の命令形」に後接する終助詞ヤ・ナ」『阪大日本語研究』21

篠崎晃一（2008）『出身地が分かる！気づかない方言』毎日新聞社

『日本国語大辞典　第 2 版』（2001）小学館

『広辞苑　第 6 版』（2008）岩波書店

増井金典（2010）『日本語源広辞典』ミネルヴァ書房

「ほべりぐアーカイブ・くらべてガッテン　－遊んでいるグループに入れてもらうときの言葉－」http : //hougen. atok. com/archive/index.html（2012/11/23 確認）

大阪府白地図（白地図専門店）http : //www.freemap.jp/todoufuken/osaka.html（2012/11/26 確認）

「251 市区町村の名称を記載した地図」